

第1回鳥取県教育審議会学校等教育分科会（要旨）

- 1 日 時 令和2年度7月3日 午後1時30分から3時まで
- 2 会 場 鳥取県庁第二庁舎4階 第22会議室
- 3 出席者 小椋分科会会長、金山委員、中村委員、松岡委員、松本委員、三木委員、山根委員、田中（宏）委員、西川委員
- 4 要 旨（○：委員発言／●：事務局発言）

（1）諮問の概要について

- 本分科会には、子どもの数が減り続けて、社会も変革するような状況の中で、令和8年度以降の鳥取県の高校はどうあるべきか、ということについて配布資料2に記載の12の観点で見解が求められている。今後、10数回の分科会を開催。令和3年度の夏から秋ぐらいいまでに意見をまとめ、県教育委員会に対して、意見を申し述べる（答申）を行う予定。

（2）個別最適化された学びについて

- 個別最適化された学びとは、文部科学省が「誰一人取り残すことなく、子どもの力を最大限引き伸ばす学びであり、多様な子どもの一人一人の個性や置かれている状況に最適な学び」と定義。その手法として、主にICTの活用が挙げられており、個々の子どもの状況をAI等で分析するなどして、個別最適な学びを行おうというのが国の考え。
- 教員による教育指導は必ず必要。子どもたちが一人一人ドリル学習をやっているものではない。教育の課題はいっぱいあるが、難しさを理由に個別化に走るのではなく、学校教育本来のあり方を正面から問い直すことが今回の議論の中心になるべき。
- 10年間で生徒の数が1,000人減る。逆に言ったら、個別最適化は、少人数でそれぞれに見合った教育をすればいいので、逆に鳥取県は最先端の教育ができる可能性だってある。
- 生徒減に対して学級減じゃなくて、少人数で指導して行って、そこに活路を見つけて、子どもたちを伸ばしていくというのが基本だと思う。
- 鳥取県は、この個別最適化なんて使わずに、特別なこと、逆に個性的なことを展開していくのが良いのではないか。
- 学力だけでなく、自分の特性に合った楽しく学べる学校があるといい。
- 学級の中で、集団で、グループで、いろんなことを話し合いながらやっていく、そういう学習のあり方をきっちり見直さないといけないし、そういうことの方が効果があると思う。
- ユニークなものを作って、優秀な子、好奇心の高い子たちを育てて世界にばらまいていく。でも帰郷の受け皿として鳥取県が面白くないといけない。それを作るのが県であるし、大人である。そういうシステムを作って、自然の中で魅力的な環境を作る。そこにもっと意識を高めるべき。
- 理解の進みが早い生徒とそうでない生徒がいる。そこにタブレット端末が入ると、生徒個別の学習進度に対応できるようになる期待もあり、生徒ごとに適した指導につながるものと考えて。
- 履修主義ではなく、ちゃんと習得主義に、もう一度戻るようなことが必要だと保護者の中では常々、意見が出ているのでそのあたりをもう少し考えてもらいたい
- 大方の委員の意見、ICTとかAIをどんどん使えばそれで教育が良くなるとは思っていないということによって一致していると思う。ICTなどはツールとして使いこなせる力は必要だけでも、一人一人が、iPadに向かって、別々に勉強することが、これからの教育ではないということ。
- まずは、鳥取県でどういう生徒を作るのかという生徒像を考えていく必要があると思う。「個別最適化された学び」は、どのような教育を進めていくのかという方法の一つ。
- 子どもたちにつけたい力は「地域を守る大人になれる力」。県外に出ても県内に残っても自分の住んでいる地域をちゃんと守れる、どこに住んでいても生きていける大人になれるようにしとかなんていけない。
- 事務局には、現在の高校のあり方についての考え方について、現行の基本方針から説明してもらうとともに、鳥取の高校教育の困難や課題、施策について話をした方が良く思う。
- 令和8年以降は、どんなふうに本県の県立高校を存続させていくか、子どもたちに力をつけていくためにどうあればいいのかということはこの会で考えていかなければならない。
- 今まで鳥取県の教育をどう進めてきて、どんな課題があるか、次回にお示ししたいと思う。

以 上